

Title	古版経済書解題 ジェーカップ・ンダーリント著一千七百三十四年版 銀子は何事にも応ずる
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.6 (1937. 6) ,p.915(125)- 928(138)
JaLC DOI	10.14991/001.19370601-0125
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19370601-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古版經濟書解題

ジェーカンプ・ヴンダーリント著一千七百三十四年版『銀子は何事にも應ずる』

高橋誠一郎

夙に自由貿易論と共に土地單稅論を提唱して重農學派の先驅者と看做され、又、公平なる富の分配を主張して英國に於ける「科學的社會主義の創唱者」と稱せられたる和蘭・フランドル系の商人にジェーカンプ・ヴンダーリント (Jacob Vanderlint) がある。彼の著「銀子は何事にも應ずる」(Money answers all Things: or, an Essay to make Money sufficiently plentiful amongst all Ranks of People, and increase our Foreign and Domestic Trade; fill the Empty Houses with Inhabitants, encourage the Marriage State, lessen the Number of Hawkers and Pedlars, and, in a great measure, prevent giving long Credit, and making bad Debts in Trade. Likewise shewing, the Absurdity of going to War about Trade; and the most likely Method to prevent the Clandestine Exportation of our Wool: and also to reduce the National Debts, and ease the Taxes. が倫敦に於て出版せられたのは一七三四年。一七三四年のウォールポールのよつて所謂「エクスサイズ・スキーム」が議會に提出せられた翌年、即ち一七三十四年

のことであつた。本書の主眼「銀子は何事にも應ずるなり」は『傳道之書』第十章第十九節に據れるものであつて、著者は又、『箴言』第十章第十五節「貧者の乏しきは其の亡びなり」を題句としてゐる。著者の生涯に就いては殆んど何事も知られてゐない。彼れは此の書一卷のみによつて經濟文献史上に異彩を放つてゐる。

二

本書は其の巻頭に掲げられたる「大不列顛の商人に與ふるの書」中に述べられてゐる通りに、世界通商の基礎に關する明晰なる解説であり、而して特に此の國民の貿易状態に適用せられて、之れを擴張し、之れを最完全の域に導かんことを期するものである。貿易の偉大なる基礎は恰も吾人の特殊事項の指導せらるゝ諸準則と等しく鞏固にして明白なる諸原理によつて確立せらるゝを得可きである。

一般交易が暫く不振の状態に於いて存し、惟り改善せらるゝの見込なきのみか、更らに一層不良と爲りつゝあるの觀ある事實は、著者を驅つて、過去數年間に於ける食料の急激且つ非常の騰貴によつて明瞭に指摘せられ發見せられて剩す所なき原因を考察せしめたのである。著者は、騰貴が全然季候に歸す可きではなく、寧ろ主として土地耕作の不足に基くものなることを認めた。而して凡そあらゆる物の騰貴は或る程度の稀少を含蓄するが故に、斯くの如きは土地の耕作に使用せらるゝ人民が餘りに少數であり、従つて又、總べての商業、製造業及び高等職業に従事する者が餘りに多數であることを示唆する。著者は缺陷が那邊に存し、又、如何にして救濟せられ得可きかを示す可き其の省察の或るものを記述せんとする。而して彼れは人民の間に於ける貨幣の使用、必要、増加及び減少に關する考察が此の重大事項を最もよく説明す可きを看出せるが故に、先づ貨幣に關する一定の原理を述べる。(ibid., pp. 1-2.)

MONEY answers all Things :
OR, AN
E S S A Y
TO MAKE
M O N E Y

Sufficiently plentiful
Amongst all Ranks of PEOPLE,
AND
Increase our Foreign and Domestick TRADE;
Fill the EMPTY HOUSES with Inhabitants,
Encourage the MARRIAGE STATE,
Lessen the
Number of, HAWKERS and PEDLARS,
AND,
In a great measure, prevent giving long CREDIT,
and making bad DEBTS in TRADE.
Likewise shewing,
The Absurdity of going to War about TRADE;
and the most likely Method to prevent the Clandestine
Exportation of our WOOL:
AND ALSO
To reduce the NATIONAL DEBTS, and ease
the TAXES.

By JACOB VANDERLINT.
The Destruction of the Poor is their Poverty. Prov. x. 15.
L O N D O N :
Printed for T. COX; and Sold by J. WILFORD, at the Three
Flour de Luce behind the Chapter-House in St. Pauls Church-yard.
M.DCC.XXXIV.

(一)貨幣(即ち金及び銀)は總べての國民の同意によつて、他の總べての物件の價值を調整し、而して人と人との間に於ける總べての計算を平衡せしむ可き數取りと爲り、又、總べての種類の貨物が取得せられ讓渡せらるゝの手段と爲れるが故に、交易の唯一の媒介物と爲つたのである。(二)貨幣が鑛坑を有することなき一國民中に誘致せらるゝは惟り這般の國民が其の輸入するよりも價值に於いてより、以上の財貨を輸出するに依るのである。即ち自由貿易論者と看做さる可き本書の著者はトーマス・ゴルドン、サー・マッシュュー・デッカー等と共に尙ほ貿易平衡の信條を保持するものであつた。(昭和七年版拙著「軍商主義經濟學說研究」一八九—一九〇頁參照)。(三)貨幣は鑛坑の存する所に於いて最も夥多である。従つて又、金及び銀は鑛坑の存する所に於いては、是れ等の鑛坑によつて是れ等の金屬を供給せらるゝあらゆる他の場所に於けるよりも慥かに價值少なかる可きである。(四)あらゆる國の產物若しくは製品の價格は其の國に流通しつゝある現金の數量が其の國に住居しつゝある人民の數に比して大なるか若しくは少なるかに由つて或ひは高く或ひは低かる可きである。(五)銀行業務は、或る者が他の者の貨幣を以つて支拂はるゝ限りに於いては、即ち銀行業者等が實際に領有する總べての現金よりも更らに多くの現金引換手形が流通しつゝある所に於いては、恰も其れだけ多くの現金が實際に流通しつゝあり、又人民の間に分割せらるゝに等しき結果を有し、而して諸物價は是れに由つて騰貴せしめらる可きが故に、そは吾人をして其の諸物價が吾人のものよりも低廉なるあらゆる國の貨物を收受す可き市場たらしめざるを得ず、又たらしむ可きの結果を伴ふ可きである。(六)一定特殊物件の夥多若しくは稀少はあらゆる貨物若しくは物件が其の價格を騰貴し若しくは低下する唯一原因である。如何なる技術若しくは法制と雖も之れを別様たらしむるを得ざるは、恰も法制若しくは技術が諸物の本性を變更し得ざるに等し。S. (ibid., pp. 2-5.)

(七)此の世に存する總べての物件は元來大地の產物であつて、是れよりして總べての物件は產出せられなければならぬ。斯くて愈々多くの土地が改良せられ耕作せらるゝならば、總べての物件は愈々夥多であり、而してそは又愈々多くの人民に業務を與ふ可きである。斯くて又、產物は増加せらる可きが故に、總べての物件の消費も亦増加す可く、而して是れに由つて豊富の程度が愈々大と爲るや、あらゆる物件は愈々低廉と爲る可きである。斯くて又、貨幣は夥多と爲る可きである、即ちより、少なる貨幣は、あらゆる物件の豊富が價格を低減すると恰も同一の割合に於いてあらゆる物を購入す可きが故である。而して若し這般の方法が十分に追求せられたらば、食料及び飲料は其の價格を現在よりも半減する迄に豊富の程度は増加せらるゝを得可く、勞作民の勞働の價格は是れに由つて著しく低廉と爲る可きである。蓋し勞働の賃率は常に食料及び飲料の價格によつて決定せられ構成せらるゝが故である。而して總べての製品の價值は主として其の上に適用せられたる勞働の價格若しくは費用より構成せらるゝが故に、總べての製品は著しく低廉と爲る可きである。是に於いて乎、吾人は我が製品を甚しく低廉なる價格に於いて生産し輸出するを得せしめらる可く、斯くて貿易の差額は吾人に取つて順と爲り、貨幣は豊富と爲る可きである。(ibid., pp. 6-7.)

(八)貨幣の豊富は斷じて交易を繁盛ならしむるを過つことがない。蓋し、貨幣が豊富なる所に於いては、人民は概して是れに由つて斯くの如き貨幣の豊富が許す限りあらゆる物件の著しく大なる消費者たるを得せしめらるゝが故である。斯くて又、諸税は常に人民が消費し使用する諸物件の上に賦課せらるゝを以つて歳入も亦必然増加しなればならぬ。(ibid., pp. 7-8.)

ブレンダーリンドは其の第四原理によつて彼れが貨幣數量説の遵守者たるを示すと共に、本原理によつて貨幣の夥多が交易に及ぼす好影響を信する者であることを明かにしてゐる。

(九)交易の繁盛なる所に於いては、人民は常に著しく増加し、又概して幸福と爲る。蓋し斯くの如き國は絶えず強大と爲るが爲めである。(十)其の統治する陸地が幸福なる状態に於いて支持す可き限り、其の臣民の多數であることは、あらゆる政府の力と榮譽と利益とであり、而して臣民の幸福(即ち富)と數とがより、大なるか、若しくは少なるかに従つてあらゆる政府の力と榮譽と収入とはより、大なるか若しくは少なる可きである。(十一)一國家は其の有する土地がよく支持し得る以上の人民を其の國內に有することある可く、斯くて這般の人民は悲惨であり、這般の政府は微弱ならざるを得ずして、遂には貧民の多くは彼れ等が彼れ等を支持する土地を有し得る所に移住せしめらるゝに至るのである。事情は、耕作地が總べての物件をして頗る豊富ならしむるに十分なる力を有せざるあらゆる國に於いても正確に同一である。蓋し是れのみ惟り人民を幸福ならしむるを得るが故である。(十二)更らに其の以上に耕作せらる可き土地の面積は、あらゆる物件の豊富に由つて、其の價格が著しく低減せられ、労働の賃率も亦是れに由つて低減せられて、遂には是れが爲めに貨幣が一般人民の間に夥多と爲るに至るの程度まで一切の物件の豊富を増加する程に大でなければならぬ。(Ibid., pp. 8-9)。

(十三)あらゆる國の現金は常に人民の間に於ける交易裡に流通しつゝある貨幣の夥多が能く彼れ等をして支拂ふを得せしむ可きもの以上に諸賃子が引上げらるゝに比例して減少し、又稀少と爲る可きである。而して賃子を抑制し、是れに由つて這般の害悪を救済し、人民を支持するに充分なる耕作地が存せざる所に於いては、殆んど何等の貨幣も國內に残存することなきが如き極端なる場合を現出することある可きである。蓋し賃子が引上げらるゝ所に於いては、自餘一切の物件は亦騰貴せざるを得ずして、是れが爲めに他國民は我が市場に供給するを得可く、而して我が貨物の大部分は是れに由つて代物として他國民によつて收受せらるゝには餘りに高價と爲る可きが故に、吾人は

他の外國市場に於いて我が財貨を賣捌くと著しく少なきに至る可く、斯くて又貿易の差額は吾人に取つて逆と爲り、吾人が何等かの貨幣を有する間は之れを拉し去る可きが故である。(十四)賃子は是れのみ惟り能くあらゆる物件の價格を引上げ得る單一の原理、即ち農場其他に對する需要が是れ等のものがよく享有せらるゝよりも大なる割合に於いて存するに由つて騰貴せしめられたのである。而してそは人民が其の數を増加するに連れて更らに多くの土地を耕作し續くるを妨ぐるること大なるが故に、人民の過剩若しくは増加量は商業、製造業及び高等職業に従事するの止むなきに至らしめられ、遂には彼れ等は是れ等のものゝ總べてを供給過多ならしめ、困憊せしめて、其の商業其他のものは彼れ等を支持するに適せざるに至る可きである。(十五)若し國內に於ける總べての郷紳が人民の要求によつて其の賃子を低下す可しとしても、そは目的に副ふことを得ざる可きである。蓋し人民にして減少せしめらるゝことがなかつたならば、現在耕作せらるゝ土地が生産し得る大地の果實に對する需要は依然として大であり、又長く大なる可く、彼れ等の間に流通しつゝある貨幣がよく彼れ等をして是れ等のものに對して支拂ふを得せしむ可きよりも必然高く價格を維持す可きが故である。是に於いて乎、賃子を低下する自然的方法は惟り極めて大なる地域の荒蕪地を開墾して農場を豊富ならしむるに存し得るのみである。(Ibid., pp. 9-11)。

ワンダリーントは、斯くの如き提案が、其の家産が土地より成る總べての郷紳よりする殆んど打ち勝ち難き反對に遭遇せざるを得ざることを感知してゐる。而も彼れは斯くの如くして彼れ等の家産を低廉ならしむるは彼れ等郷紳に取つて何等眞個の損失に非ざることを論證して其の偏見を排除するに努める。(Ibid., pp. 11 ff.)。

三

著者は「労働の價格は常に必需品の價格より構成せられ、而して他の總べての物件の價格は主として労働の價格

より構成せらるゝと做すの意見に基いて、「貨幣を手放す吾人が若し、常に食料及び飲料の價格より組成せらるゝ労働をして充分に低廉ならしむるに足るまで我が充實を大ならしむるならば、我が製造品及び其の他のあらゆる物件は直ちに恰好と爲り、貿易の差額をして吾人に取つて有利ならしめ、是れに由つて又再び貨幣を呼び戻すに至る可きである」と説く。 (ibid., pp. 15, 43-44.)

彼れは進んで幾多の大體的觀察を行ふ。(第一)或る國民が莫大の金銀を有すると、彼れ等の間に極めて少額の貨幣を有するに過ぎざるとは、あらゆる物件の充實をして充分に大ならしめ、彼れ等の有する貨幣をして十分に弘布せしめて、其のあらゆる部門に於ける交易に通用せしめ、斯くて其の人民の總べてを使用し支持するが爲めに遺憾なき注意が拂はれたならば、何等重要視するに足らざるものである。(ibid., p. 55.) (第二)人民が彼れ等の利得の殆んど總べてを費すや否やは、彼れ等が眞に利得する所以上を費することがないとしたならば、或る國の交易に對して殆んど何等の影響をも有せざるものである。(ibid., p. 56.) (第三)這般の提案の十分なる實施は我が羊毛の密輸を防止する唯一の自然的手段である。而して吾人にして若し我が食料及び飲料を低廉ならしめて、吾人をして他の諸國民が行ひ得ると等しく低廉に勞作するを得せしむ可しとしたならば、我が羊毛の流出は自から停止す可きである。而も著者の意見に據れば、斯くの如きは、貧民をして更らに困苦の生活を送らしめ、又は彼れ等の身分相應なる欲望の要求する所よりも消費する所を少なからしむるに由つて行はる可きではない。蓋し、彼れ等は人類の大部分なるが故に、斯くの如き場合には一般に諸物件の消費に影響すること甚大であつて、人民の他の部分の間に職業及び業務の缺乏を見る可く、そは人民が斯くの如くして苦惱せしめらるゝこと愈々大なれば益々諸質子に影響す可きが故である。而もそは人民を正しき方法、即ち土地の耕作及び開墾に従事せしめ、彼れ等が身分相應に其の

欲望を満すを得て、而も猶ほ我が産物及び製品をして孰れの隣邦にも劣らざる程度まで低廉ならしむるやうに廉價に勞作し得るほど、充實を大ならしむるによつて行はれなければならぬ。(ibid., pp. 67, 69.)

(第四)這般の提案の充分なる實施は呼賣人及び行商人並びに現今人數過多に惱みつゝあるあらゆる業務に於ける總べての他の商人の數を減少し、(第五)長期の信用を與へ、又貸倒れを爲すことを著しく防止し、而して又(第六)若き人々をして結婚を行はしむる大なる刺激たる可きである。(ibid., pp. 71-73. 原書頁附に狂ひがある。)

(第七)總べての禁止は夫れだけ業務を妨ぐるが故に、貿易は自由無拘束なる可きである。總べての國民は諸國民間に於ける通商の基礎として彼れ等に特有なる貨物の生産を發達せしめ、而して斯くの如き産物の量と質とに由つて保護的立法に依るとなくして競争的輸入品に對抗するを得可きである。而もあらゆる國民は常に大體に於いて貿易の差額を彼れ等の利益に於いて保持するが如き地位に貿易を維持す可きである。(ibid., pp. 74-99.) (第八)這般の提案の十分なる實施は財産が總べての階級の人民の間に適度に且つ十分に分散せしめられ得る唯一の方法である。蓋し勞作民が十分なる業務を有せざる間は、其の數量が是れ等のものに對する需要よりも大なる總べての他の物件と等しく、彼れ等の労働は其の眞實にして正當なる價值以下に處分せられざるを得ざるが故である。(ibid., pp. 99-102.) (第九)這般の提案の十分なる實施は是れに由つて奢侈が社會に取つて有害なる限りに於いて之れを除去し得る唯一の自然若しくは可能なる手段である。奢侈は餘りに大なる財産の不平等に基礎を有するものであり、斯くて又、奢侈は交易衰頹の原因に非ずして結果である。蓋し交易の衰頹は人民の大部分が、彼れ等が當然有す可くして、而も十分なる業務の缺乏せるが爲めに其の力を以つて之れを取得すること能はざる多數の物件を缺きつゝあるに外ならざるが故である。(ibid., pp. 102-105.) (第十)這般の提案の十分なる實施は金利の餘りに大なる低減

を防止す可きである。即ち本論文中に記されたる諸目的に取つて必要なる可き大なる荒蕪地の開墾なき構圍及び改良は惟り購入せらる可き地産を豊富ならしむるのみならず、産物、延いては又製品の莫大なる高を生ぜしむ可く、斯くて政府が時々償却する貨幣をして投資の道を得せしむ可きが故である。(ibid., p. 105-107)。

(第十一) 這般の提案の十分なる實施は政府をして國債を減少し、租税を軽減するを得せしむ可きである。蓋し大地の産物及び之れが消費は確然著しく増加せらる可きを以つて、収入も亦増加せざるを得ざるが故である。而して若し總べての租税が財貨より撤せられて、單に土地及び家屋の上に課せられたならば、郷紳は租税が殆んど全く財貨の上に賦課せらるゝ現在に於いて彼れ等の有するよりも其の地産より残さるゝ更らに多くの純賃子を有す可きである。租税にして財貨から撤せらるゝならば、財貨はより低廉と爲るに至る可く、低廉は消費を増加す可く、而して這箇消費の増加は是れ等の物件に對する需要を増加す可きである。而してあらゆる物は土地の産物なるが故に、産物に對する需要は土地に對する需要を増加す可く、而してそは必然賃子を引上げて、終には租税として現に支拂はるゝ總べての貨幣並びに是れ等のものが必然隨伴せらるゝ總べての掛りが賃子として地主の懐中に入るに至る可きである。(ibid., pp. 107-120)。

夙にローグデル卿は一般に佛國重農學派の特徴と看做されつゝ、觀念の示唆を英國古書中に求め、而してルイス・ロバーツの一千六百四十二年版『外國貿易論』、『三田學會雜誌』第三十卷第七號所載拙稿『古版經濟書解題』(參照)、ジョン・ロックの一千六百九十二年版『利子引下げ並びに貨幣價值引上げ論』(拙著『重商主義經濟學說研究』五八七—五九〇頁參照)、並びにジョン・アスギルの一千六百九十六年版『金銀以外の他種の貨幣を創造するが爲めに論證せられたる諸主張』(同書四一八—九頁參照)と共に本書を掲げ、(An Inquiry into the Nature and Origin of Public Wealth, 1804, p. 113)、「デ・ガルド・ステュアートも亦、後年重農學派に

よつて提唱せられたる單稅論を主張せるものとして彼れの著を引用してゐる。(The Collected Works of Dugald Stewart, Esq., F. R. SS., vol. x, 1877, pp. 90-91, 94)。

最後に、這般の提案の十分なる實施は領土を擴張し、人類の間に自由を導入する唯一の自然的方法である。蓋し總べての人を要求す可きだけ多くの土地が絶えず使用せらるゝ所に於いては、必然總べての人民は充分なる業務を與へらる可く、而してあらゆる物件は豊富と爲り、人民中の最も賤しきものも確然自己及び家族の爲めに安樂なる生計を看出す可く、斯くして同一の程度に於いて此の點に注意を拂ふことのない吾人の周圍のあらゆる國よりして人民は必然吸引せらる可く、従つて又、人民はあらゆる專斷壓制の政府を見棄て、絶えず附加せられ改良せらるゝ多くの土地が必然彼れ等の爲めに業務を與ふ可き移住地を看出す可きが故である。而して是れに由つて領土及び商權擴張の野心的原理に基いて戰爭を行ふの愚妄と不合理とは明かと爲る可きである。(ibid., pp. 123-126)。

四

ヴンダリーント曰く、若し事物が正當なる基礎の上に置かる可きでないならば、總べての人は平等に生るゝが故に、彼れ等が使用するに適せりと思惟する土地のあらゆる定量に對し、又彼れ等の欲する用途に之れを置くの自然權を有する(其の土地が如何なる他の者によつても占有せらるゝことがないとしたならば)、自然の状態に於いて存した方が人民に取つて著しく幸福であらうと。蓋し、充實が人民を幸福に支持するに足るだけ大ならしめらるゝとしたならば、ヴンダリーントは敢て自然の状態を國政の状態と比較せんとするものではないが、然も若し労働者の賃銀と彼れが屢々支持しなければならぬ所のものであり、又洵に彼れが主として之れをまうくるが爲めに此の世に送られたる家族に對する必需品の價格が殆んど同一でない際には、人類の大部分が疑ひもなく然るが如く、

彼れ等が自餘のもの、壓迫によつて悲惨ならしめらるゝとしたならば、彼れは斯くの如き人類の不幸なる状態を以つて自然の状態其の者よりも更らに劣悪なるものと考ふるのである。(Ibid., p. 168.)。フォリー女史 (Caroline A. Foley. 後のデーヴィッツ夫人 Mrs. T. W. Rhys Davids) は、貧民の困苦を以つて不必要であり、又賢明公正なる方策によつて救済し得るものと做す其の信念に於いて、あらゆる人は彼れをして生活し家族を支持するを得せしむるに充分なる土地に對する其の自然権を有すると做すの理論を主張するに於いて、又新たな構圖が個人によらずして自治體の權威によつて行はれ且つ所有せらる可きことを勧告するに於いて、ヴンダリーントが社會主義を豫示せるの事實を認めてゐる。(Palgrave's Dictionary of Political Economy, vol. iii, 1910, p. 611.)。

洵にヴンダリーントの主題は更らに公平なる富、殊に土地の分配であり、原産物の國民的産出高の増加並びに消費の増加及び其の更らに廣大なる普及の望まじきことであつた。而も彼れが究竟の關心事は貧民其の者の幸福に非ずして、貿易の差額であつた。「貧民の勞働は富者の富である」。賃銀を以つて勞働者が其の生活を維持するが爲めに消費せざる可らざる食料及び其の他の貨物の價值より成る勞働の生産費に由つて決定せらるゝものと觀たる彼れは、賃銀率を引下げ、外國市場に於ける自國貨物の販路を擴張するが爲めには、勢ひ自國に於ける食料品の價格を低減せしむるの方策を探らざるを得なかつたのである。

多くの土地が絶えず附加せられ、又よく改良せられて勞働者の賃銀と家族支持の爲めの必要品の價格を一緒に置かしむるならば、貿易は斷じて他に何等あらゆる政府の注意若しくは懸念を必要とすることなく、人民をして彼れ等の能く行ひ得る方法及び態様に於いて之れを遂行せしむ可きである。蓋し貿易にして有利であつて、人民が増加するよりも大なる割合に於いて彼れ等の間に現金を増加するならば、諸物價は惟り斯くの如き割合に於いて昂騰す

可きが故である。而して若し自國貨物の輸出よりも著しく大なる外國貨物の輸入より生ずる必然の結果たる業務の缺乏に由つて當時更らに多くの人民が耕作其の他に落ち込まなければならぬ故に、現金が減少したならば、斯くの如く人民を使用して其の本然の價值まで諸物價を引き下ぐ可く、而して彼れ等の産物及び財貨を低廉ならしむるによつて、彼れ等をして自國財貨の輸出を増加し、外國財貨の輸入を減少するを得せしめ、斯くて又其の外國及び海上貿易を回復するを得せしむ可きである。斯くて總べて貨幣によつて、換言すれば、總べての種類の財貨が他の各國に於ける同一種の財貨の價格に關して各國に於いて保持する價格によつて支配せらるゝ貿易の潮の干満は必然人類の状態が能くし得るだけ多くの業務と幸福とを供給す可きである。(Money answers all Things, pp. 169-170.)。

デュガルド・スチュアートは其の『アダム・スミス傳』(Account of the Life and Writings of Adam Smith LL. D, 1793.)の註記に於いて本書に關説し、之れよりして通商自由の利益を説明せる諸章句を引用し、是れ等のものは的確なる判断と公正寛大なるの點に於いて共に、二十年の後、ヒュームによつて其の Essay on the Jealousy of Trade. (前掲拙著二〇九—二二二頁参照)中に極めて巧妙に主張せられたる所のもと匹敵し得るものと做してゐる。(Collected Works, op. cit., pp. 89-90.)。而してマカラックも亦、其の『經濟文獻』中に於いて之れに同意してゐる。(The Literature of Political Economy, 1845, p. 162.)。而もヴンダリーントは遂にヒュームの如く詳密なる貨幣數量説の適用によつて貿易平衡の信念を擊破し去ることなく、貨幣數量の増加、諸物價の騰貴より生ずる貿易の逆潮を防止し、永く貿易の差額を有利ならしむるが爲めに排作地の増加改良による諸物價、延いては又賃銀の低廉を期したのである。

本書はホルランダー教授の言へるが如く「極めて稀覯」であつて、吾人が之を讀むの便宜は専ら同教授の一千九百十四年の複製版(A Reprint of Economic Tracts)によつて與へられたのであるが、吾人は漸くにして昨年暮に至つて其の原版を手にすることが出來た。茲には其の表題頁の寫眞版を掲ぐることにした。(小形八折判本文一七〇頁、ヘンリー・スチーヴンス書店賣價五磅十志)。